

ルルド・スペイン聖地巡礼の旅に参加して—感謝—

帰国後2週間が過ぎた今 「感想」書けないな～この忙しさの中で と失礼させていただくつもりでした。しかし いつもと異う気持ちが心に残っていることに気づきました。それは「静かな喜びと感謝」です。

訪問地を振り返ってみますと、

ルルド：忙しかったな～ もう少しゆっくりしたかったな～ と人の多さに圧倒された気がしています。(それは以前も今回もシーズンが良すぎたからかもしれません。いっそのこと閑散期に訪問するとゆっくり祈りの時が持てたのかもしれない)。にも関わらず、心に残っていることがあります。ベルナデッタとその家族の生き方です。また移動バスの中でお聞きした6連のロザリオのお話し(先ず、マリア様のご意向に耳を傾け、最後6連目に自分のお願いをして良いかとお訊ねしてお許しを得た自分の為の一連です)。また多言語対応の聴罪室(ハウス?)がグロットまでの道中に設けられていたこと。自らの罪深さに気づき、許しを請う、そして神の声に耳を傾け、マリア様に より頼む生き方に「そうだ、生きる姿勢はそう在ることだと今更ながらに気づきました(心に落としました、巡礼の恵みです)。『奇跡は身体に起こることのみでなく、心の在りようを替えていただくことに気づいてみましょう』と話して下さったバスの中での神父様のお話しと重なり、日を増すごとに自分の中に起こっている変化に感謝です。

エンビニ村：バス移動の車窓から見たピレネーの山々と空の青さ(本当に澄んだ地中海のブルーでした)、この景色を眺めながら青草の上に座りお弁当をいただいた時、「主はわたしを青草の原に休ませ…、魂を生き返らせて下さる」と言う詩篇を思い、自然の中に主の慈しみを感じ、やはり巡礼の旅だな…とバスに戻って静かに味わうことができました。小さな山村の教会と教会のお庭にたわわに実ったサクラボの籠盛り、手作りのプディング、果実酒など真心のこもったおもてなしに感謝でした。のどかで小さな村の素朴な人柄と信仰に触れさせて貰った気がしました。(何しろ山手に登った人を呼ぶのにバスのクラクションを鳴らすのです。羊飼いが羊を集める時のようで…現代の殺伐とした世に暮らす私たちには考えも及ばない姿でした)。

モンセラート：その名の通りギザギザの鋸(のこぎり)山にベネディクト修道院があり、ベネディクト会士である司祭方、修道者方の綺麗な歌声での教会の祈りにも うっとり、私にとっては祈ると言うより聴き惚れて心が天井にあげられる思いでした。一番古い観想修道会とあって、祈りと働きの日々、ミサも教会の祈りも歌だそうで、ご苦労様とさえ思いました。後で同行司祭のお話によれば戒律は緩やかですよ、厳律シトー会の方が厳しいでしょうとか…。

修道院の横にあるホテルからも、辺りの広場からも真っ青な空、それは見事な景色でした。思い出すと石の山、そびえ立つその山の壁面に立つ修道院、真っ黒な修道服に身を覆い朝な夕なに祈りを捧げる修道者の沈黙の生活。下界では神のみ心を忘れそうな喧噪の日々、あちこちで勃発する戦争、創造された世界の秩序を乱している人間の世界にこうした修道者の祈りが必要かつ「おかげ」で暮らせているのかなと思い感謝しました。

マンレッサ：大きな立派な教会でしたが、その奥にあるイグナチオ・ロヨラが籠ってイグナチオの霊操を書きあげたという洞穴横の小聖堂で日本語による「右近列福記念ミサ」に与ったのですが、壁面に高山右近の姿を見つけたのは松村さんのグループの方であったとか。右近のミゼリコルディアの心と松村さん達ミゼリコルディア大阪の心が、東洋人の？日本人の？心を引き合わせたのでしょうか…。現代の日本人（キリスト者）として右近の生涯の姿に学びたいものを多く感じている昨今、タイムリーな引き合わせプランであったことを感謝しました。

最後に訪れたのはバルセロナ、ガウディーの遺作、すなわち今続けて建築中のサクラダファミリアでしたが、時間の都合でしょうか1階からのみ見学しました。解説者による教会建築に当たってのガウディーの精神性、霊性の現れのようなものを垣間見ることが出来たのはとても良かったです。が、個人的には外観からみる後継者の表現とガウディーの表現したかったものには違いがあるのかな～と思いました。人も多く、巡礼と言うより、観光名所の感ありではありましたが、スペインを訪れて、この建築の現状を眺めないのももったいないよね～と言うのが正直な感想です。これも一つの巡礼なのでしょう。

こうして感謝感謝で楽しく思い出すのはマルセリーノ神父様とヤマス神父様のご関係で供された二か所のワインにチーズ、サラミ、生ハムにパエリア他！これに惹かれて又訪問したいな～と最初に参加を躊躇していた自分を忘れている私です。先日、同行司祭ヤマス神父様にお話しをしたのですが、巡礼前の事前学習資料を巡礼センターが用意して居て下さったことが大きく助けになりました。同行者との交わりも、同行司祭方も、毎日ミサに与れたことも皆良かったです。巡礼センターの得意分野であったことも大きいのでしょうね。

神様と皆様に感謝を申し上げますとともに、センターの視点で「五島の旅」企画も楽しみにしています。感謝のうちに

巡礼参加者名古屋グループ 一員

十主の平和

ありがとうございました。

フランス スペイン聖地巡礼の旅、私にとって初めての巡礼！本当にすべてが感動の体験でした。松村さんのお話の中で、「皆さんは 呼ばれたのです」という言葉がとても心に響き 巡礼の喜びが何倍にも大きくなりました。

そして効率よく巡礼出来るよう取り計らって下さった皆様方に心から感謝いたします。また、本来なら許されないことでしたがプロのオルガニストでもない私に 大聖堂でのオルガンを任せてくださったことに深く感謝いたします。

お話を受けてからは神さまが共にいてくださるようお願い、日々取り組ませていただいた次第です。

今日 youtube で 演奏を聴いてみたのですが、オルガンの音が微妙に遅れる点が 気になりました。演奏中の記憶…(弾くオルガンの音と 耳に聞こえているバイオリンの響きとに時間のズレが あるに違いはないと感じました。でもそれをどう処理したら良いか？と悩んだ記憶が蘇ってきました。でも 私は聖霊により頼むことに集中しようとしたのも覚えています。けれども、3 回ほど聴いてみるうちに バイオリンの歌声と天の輝きのようなオルガンの音色が 天国的な響きを成しているとも感じられてきました。まさに聖霊が働いています。私はなんて楽観的なんでしょう!/?でも神さまが 助けて下さった演奏は必ず良いものに違いありません！

神さまが与えてくださった この有難い経験を生かし、神の栄光を賛美するオルガン奏楽のみ旨に感謝しながら日々神さまの小道を走って行きたいと思っています。

感謝のうちに。

武田 真奈美

心の旅

ルルドの水浴の順番を待っているのは、それは寒くて、冷たい長時間でした。体調を崩す人もおられました。他のグループは、それぞれ祈り、歌っています。そんな私たちをヤマス神父様、時間を変えてアンリ神父と金神父様が様子を見にきてくださいました。そのときの金神父様の話が心に響きました。「みなさん、長い時間待っていると、割り込みしたいと思う気持ちあるでしょ。しかし前の人が入ることを喜ぶ心が持てたとしたら、もう入らなくてよい。実はその心を持つために入るのです。それが救いそのものなのです。愛そのものです。今自分がどれほ遠く離れているかわかるでしょ。短いですけど、心の旅をするので

す。短いですが巡礼です、救いがあります。」それから私たちのグループのロザリオの祈りを唱えました。そして順番が近づくにつれて緊張が高まってきました。ボランティアの方々の招きと支えで水に浸かることができました。一コマの話を書いても心に届くものがありました。それが旅の中すべてにありました。この旅に呼び集めてくださってありがとうございました。

浅野たか子

悲しみから一歩踏み出せずにはいましたが、生きてればこそこんな素晴らしいお恵みと感動を頂けるのだと、

初めて聖地巡礼に参加させて頂き皆様に心から感謝して下さりありがとうございました。

片岡 静江

2017年5月 「フランス・スペイン聖地巡礼の旅」

10代の頃より、「ルルドに行ってみよう」と思い続けて数十年、神様に導いていただきやっとルルド巡礼を果たすことが出来ました。ありがとうございました。「巡礼の旅」というのは私にとっては初めてのことであったので、多少驚きや戸惑いもありましたが、ルルドのマリア様のもとで、マリア様に護られて貴重な体験も出来ました。また、素晴らしい教会でヤマス神父様、キム神父様、そしてアンリ神父様よりごミサに与ることも出来ました。何より、旅行中に、神父様方より様々な場所で良いお話をたくさんお聞かせ頂いたことも忘れることはできません。この経験がこれからの私にとって大きな糧となると信じております。

皆さまにも大変お世話になりました、ありがとうございました。

「神に感謝！」

木村 優水子